

想像したことを楽しく自分の言葉で表現することができる児童の育成

「も詩」、「つけた詩」、「ニュー詩」と段階的に詩を書く指導を通して

国語班 松井 康(小学校教諭)

段階的な詩の指導

成果と課題

「もし自分が～だったら」と書き始める「も詩」から、「つけた詩」「ニュー詩」と段階的に詩を書く指導を取り入れたことで、児童は詩を書くことに対する抵抗感をあまり感じることなく、書くことができた。

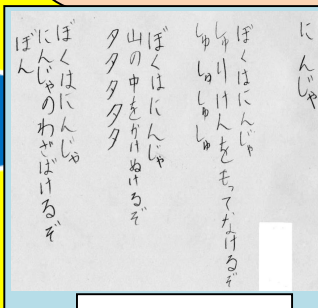
実践後のアンケートでは、ほぼ全員が詩を書くことに対して「楽しかった」と回答し、9割以上の児童が「これからも詩を書きたい」と回答していた。また、実践後に自主的な学習として家庭で詩を書いている児童も多数いた。さらに、「書きたいけれど思いつかない」と言っていた児童も「楽しく書くことができた。」と感想を述べることができていた。

「も詩」という型を示すことで、今まで書くことができずにいた児童も書き進めることができたが、もともと感性や発想力が豊かな児童の中には型があることで書きにくいと感じていた児童もいたようである。児童がもっている豊かな感性を生かすつより楽しく自分の言葉で表現していく指導の工夫をしていきたい。

ステップ3「ニュー詩」

手立て 「ニュー詩」作り

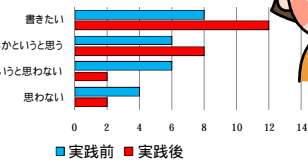
「も詩」や「つけた詩」を発展させ、自分の想像したことに合う詩「ニュー詩」を書くことによって、楽しく自分の言葉で表現できる喜びを持ちながら詩を書く。



児童Aの「ニュー詩」

そうか！こうやって書けばいいんだね。楽しいな！

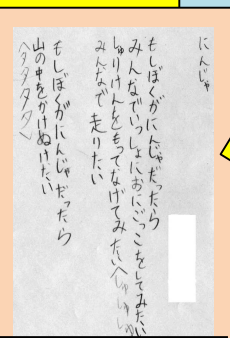
これからも詩を書きたいですか、



ステップ2「つけた詩」

手立て 「つけた詩」作り

連の構成や表現技法を工夫しながら、言葉を付け足し、言葉をふくらませた詩「つけた詩」を書くことによって、さまざまな表現を使った詩を書く。



児童Aの「つけた詩」

「も詩」や「つけた詩」から発展させて、自分の言葉で表現をした「ニュー詩」

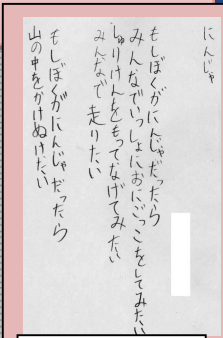
このまま
このままの自分
友だちも
このままがいい
あそぼ
このままの自分
先生もこのままがいい
ワハハハハ
このままの自分
みーんな
このままがいい
そうだね

児童作品

ステップ1「も詩」

手立て 「も詩」作り

「もしぼく(わたし)が～だったら」ということを想像し、その想像したことをもとにして、「も詩」という詩を書くことによって、楽しく詩を書く。



児童Aの「も詩」

地球
もしぼくが地球だったら
うつくしい地球にしたい
ピカピカ ピカピカ
いんせきをよけたい
もしぼくが地球だったら
世界中をりっぱにしたい
キラキラ キラキラ
町をまもりたい
もしぼくが地球だったら
りっぱな町をつくりたい
ガヤガヤ ガヤガヤ
新しい国をいっぴい
つくりたい
もしぼくが地球だったら
国の人数をふやしたい
ワイワイ ワイワイ
人気者の星にしたい
もしぼくが地球だったら
学校をたくさんにしたい
ウキウキ ウキウキ
町にいっぴいつくりたい

「つけた詩」の書き方で書いた部分
き方で書いた部分

「も詩」の書き方で書いた部分



うーん どうやって書けばいいのかわかんないよ...



現状と課題

詩を「書くこと」に対して、「書きたいけれど、思いつかない。」「何を書いたらいいのかわからないから、書きたくない。」という児童が多い。書くことに対して意欲はあるものの、書き方がわからないために「書くこと」が苦手な児童に対して、興味・関心が持続できる手立てを考え、指導方法の工夫・改善を行う必要がある。